

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 壁をつらぬく光として

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

2016年も残りわずかですが、どんな1年だったでしょうか。日本聖公会は6月の総会で大きな変化がありました。祈祷書と法規の一部が改正され、洗礼を受けた大人も子どもも、適正な準備の後に陪餐することができるようになります。また、祈祷書改正委員会が設置され、伝統を大切にしながらも、神さまの宣教の業に参加する私たちの信仰の要となる祈りの書の改訂準備が始まります。そして、「ハンセン病回復者と家族のみなさまへの謝罪声明」を決議しました。回復者やご家族の痛みや苦しみに寄り添い、人間としての尊厳回復を目指した取り組みが不十分であったことを反省・謝罪し、積極的な啓発活動と療養所内の教会信徒との交わりの深化を約束しました。

総会決議から半年後の先日、各教区人権担当者の集まりで、多磨全生園を訪問しました。資料館を見学し、回復者の方のお話を聞き、「らい予防法」の廃止から20年が経つ今でも、見えない厚い壁があることを改めて認識しました。「重い皮膚病」の「重い」という言葉に偏見が残っているというお話にハッとさせられ、無関心や認識の不足が差別や偏見につながっていることを思われます。資料館の展示で、クリアケースの中に「取り戻せていないもの」「家族との絆」「社会との共生」「入所前の生活」「人生の選択」という5つの言葉が展示してありました。一人一人の人生に出会い、寄り添う丁寧さを欠くとき、偏見や差別の誘惑が起こってくるのではないのでしょうか。少数者の排除によって、様々な人と人との間の壁が広がっている現実を見つめ続けたいと思います。

「暗闇と死の陰にいる人を照らし、わたしたちの足を平和の道に導く」(祈祷書：ザカリヤの賛歌 より)

この喜びが、わたしたちの心の中に、すべての人々の心の中に、暗闇の壁をつらぬく光として、暖かな希望の光・平和の光として届きますように。

2017年も、みなさまにとって恵みのあふれる1年となりますようにお祈り申し上げます。

クリスマス おめでとうございます。



## □会議・プログラム等予定

(12月25日以降および  
前回報告以降追加分)

12月

26日(月)～27日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト〔管区事務所〕

2017年

1月

12日(木)～13日(金) 各教区正義と平和担当者の集い〔京都教区センター〕

13日(金) 正義と平和委員会〔京都・聖アグネス教会〕

16日(月)～17日(火) 各教区青年担当者会〔名古屋学生青年センター〕

17日(火) 青年委員会〔名古屋学生青年センター〕

23日(月) ウィリアムズ主教記念基金委員会〔立教大学〕

26日(木) 主事会議〔管区事務所〕

26日(木) 文書保管委員会

2月

3日(金) 正義と平和・原発問題プロジェクト〔管区事務所〕

13日(月) 常議員会〔管区事務所〕

21日(火) 定期主教会〔神戸〕

23日(木) 管区人権担当者会〔神戸〕

28日(火) 年金委員会〔管区事務所〕

<関係諸団体等会議・他>

2017年

1月22日(日) NCC カトリック一致祈祷集会〔カトリック蒲田教会〕

24日(火) NCC 宣教会議実行委員会〔管区事務所〕

25日(水) WCRP 新春研修会〔立正佼成会〕

26日(木)～27日(金) 外キ協全国協議会〔大阪 KCC 会館〕

28日(土) 外キ協全国キリスト者集会〔カトリック大阪梅田教会〕

2月4日(土) NCC 主催・宣教会議 2018 第2回プレ集会〔早稲田〕

20日(月) NCC 役員会〔早稲田〕

☎ 管区事務所の冬休み 12月29日(木)～1月5日(木) 管区事務所業務をお休みいたします。よろしくお願いたします。

## □常議員会

第62(定期)総会期第4回 12月2日(金)

<主な決議事項>

1. 大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定について  
来年度の申請はなかったため、大斎克己資金へ組入れる旨を承認した。
2. 2016年度管区一般会計収支について  
補正不要の旨承認した。
3. 海外出張について  
2017年2月20日のアジア地域の首座主教の集まりに植松首座主教が出席することを承認した。
4. 管区事務所職員定期昇給について  
2017年度の管区事務所職員の定期昇給について承認した。

## 2016年教区会選出常置委員

北海道	聖職 信徒	広谷和文(長) 久末隼一	下澤 昌 津田武典	池田 亨 三浦千晴
東北	聖職 信徒	長谷川清純 赤坂有司(長)	八木正言 坂水かよ	李贊熙 竹石和己
北関東	聖職 信徒	矢萩栄司 谷川 誠	小野寺 達(長) 横川 浩	木村直樹 菊池邦香
東京	聖職 信徒	高橋宏幸(長) 黒澤圭子	佐々木道人 後藤 務	笹森田鶴 松田正人
横浜	聖職 信徒	入江 修 中林三平	田澤利之 村井恵子	相澤牧人(長) 佐藤尚敏
中部	聖職 信徒	土井宏純(長) 河西恵子	西原廉太 牛島達夫	中尾志朗 池住 圭
京都	聖職 信徒	黒田 裕(長) 佐々木靖子	大岡左代子 小野周一	藤原健久 木川田道子
大阪	聖職 信徒	竹林徑一(長) 小池義郎	内田 望 辻 節子	原田光雄 畑野めぐみ
神戸	聖職 信徒	上原信幸(長) 大東正人	小林尚明 松田嘉彦	小南 晃 大東康人
九州	聖職 信徒	小林史明(長) 東 美香子	牛島幹夫 細川眞二	李 浩平 秋山みどり
沖縄	聖職 信徒	戸塚鉄也(長) 富本盛彦	金 汀洙 洲鎌君代	高良孝太郎 真志喜 修

次回以降の会議:2017年2月13日(月)、4月25日(火)



## □各教区

## 神戸

- ・第86(臨時)教区会 2017年3月4日(土) 11時~17時 神戸聖ミカエル大聖堂(神戸教区主教座聖堂)



†逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ダビデ塚田 理師(東京教区・退職/元・立教大学総長) 2016年11月15日(火) スイスのご自宅にて逝去(86歳)。  
尚、ご葬儀は親族とごく親しい方々により、12月10日(土) 聖オルバン教会にて執り行なわれました。

## 📖 出版物案内

- ・『日本聖公会法憲法規』(2016年第62総会改訂版) 2017年1月1日付発行 価600円(税込)
- ・『おいで子どもたち』 2016年10月24日付発行 価756円(税込)
- ・[聖公会手帳 2017] 在庫僅少!!  
大型判 価2,200円(税込)  
小型判 価1,200円(税込)  
お求めは聖公書店、またはお近くのキリスト教書店にお願いいたします。

## まぶねの幼子 —クリスマスに寄せて—

首座主教 ナタナエル 植松 誠

日本の、いわゆる世間一般のクリスマスは、その始まる時期が年々早まるように思います。数年前までは、まだ降臨節に入ったばかりなのに・・・という時期でしたが、最近は降臨節どころか、もうすでに10月末頃からクリスマスケーキの予約が始まっています。若者たちが入るようなお店にはハロウィーンが終わるやいなやすぐにサンタクロースが出現し、クリスマスツリーや美しいロウソクが飾られ、気分はすでに「メリー・クリスマス!」になりそう。クリスマスツリーが飾られるお寺も少なくないし、お寺の幼稚園でも「ジングルベル」とともにサンタクロースが登場し、「きよしこのよる」を歌うところもあるとのこと。日本中が俄かキリスト教国のようにだと驚いた海外からの宣教師もいました。そのような状況に、私たちクリスチャンとしては、少し眉をひそめながらも、なにか自分の信仰が市民権を得たような、そんな気分にもなってしまう。

イエスの弟子たちが、他の者がキリストの名を使って癒しの業をしていることに憤慨した時、イエスは言われました。「わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである」(マルコ9:40)

さて私たちはこの時期、クリスマスシーズンに浮かれているように見える人々に眉をひそめるほどに、本当のクリスマスの意味を噛みしめているのでしょうか。本当に大切なことは、目に見えることに心騒がせるのではなく、奥深く隠された真理に心を傾けることではないかと思えます。

「まぶねの幼子には 十字架の痛みが待つ  
救いの神のわざを 心に深くきざみ  
感謝の声をあげて 主イエスの道をたどる」 聖歌96番(降誕節)

降誕節のこの聖歌に歌われる「十字架の痛み」は、幼子イエスの誕生から始まり、十字架に至る私たちへの救いのご計画が、神の愛の業であることを思い起こさせます。

12月24日のクリスマスイブ、そして25日にかけて、私たちもクリスマスの華やかさに浸ります。しかし、クリスマスの終わるころ、華やかさは消え、クリスマスケーキは半額以下になり、クリスマスツリーは外に捨てられ、皆の関心はお正月に飛んでいきます。私たちの心の中に、十字架の痛みの始まりとしての大切なクリスマス、主のご降誕の祝福の光が消えてしまわないように、今のこの降臨節こそ、一日一日を心静かに、思いを深くして過ごしたいものです。

## 特集・日韓協働のために

### 日韓協働合同会議を濟州島で開催

2016年11月29日～12月1日(会議日11月30日)

韓国・濟州島にある大韓聖公会・濟州教会を会場にして、日韓の協働委員による合同会議が開催された。日本側参加者は会議前日、現場研修を行ない、濟州4・3平和公園、カンジョン村海軍基地等を訪れることが出来た。

会議には韓国側からは、金根祥主教をはじめ日韓協力交流委員会、両性平等委員会、TOPIK担当者、教務院スタッフら8名、日本側は磯主教および日韓協働委員、青年委員会、女性デスク、ジェンダープロジェクトからの総勢11名の参加となった。



30日、早朝からの会議となったが、協議事項は、①2017年日韓青年セミナー、②社会宣教スタディツアー、③日韓の反核平和の連帯、④女性の交流、⑤TOPIKの協力、⑥濟州教会建設支援、⑦日韓聖公会宣教協働30周年記念大会共同声明のその後の検証、⑧米国聖公会へ送る日韓の共同声明など、である。

協議事項は多岐にわたり、時間の不足を感じながらの議論であった。

今回は、来年に日本で行なわれる日韓青年セミナーの具体的なプログラムの調整、女性の交流促進が主な議論になるので、青年委員会から小林聡司祭、女性デスクから木川田道子さん、ジェンダープロジェクトから篠田茜さんが同行し

### 管区宣教主事 マルコ 谷川 誠

て陪席してもらった。

日韓両聖公会の課題を実行してゆく場合、それぞれどの委員会が担当するのかが問題になる。今回、韓国側は両性平等局が女性の交流について対応した。欠席ではあったが、青年の活動には大韓聖公会青年学生宣教委員会が担当することになった。これからの日韓の交流促進にとって大きな前進となるだろう。

濟州教会に対する日本聖公会への建設支援要請についてであるが、現在の濟州教会は借りた工場建物を改装して、教会として使用しているもので、内部こそ礼拝堂ではあるが、外部は全くの工場である。雨が降って来ると屋根に当たる雨音で、会議の声も聞き取れない状態であった。台風では壁が破られ、聖書、祈祷書が使用出来なくなり、日本聖公会からこれらの礼拝用具のために見舞金をお送りした。

まだ本格的に動いてはいないが、濟州島でたった一つの教会を「日韓友情の教会」として建設したいとする大韓聖公会の希望がある。

濟州4・3事件の学びとともに、大阪・生野に住む在日の方々の出身地の多くが濟州島であることに、改めて日韓交流の大切さを濟州島で感じた会議であった。



新たな建設が望まれる濟州教会

## 日韓合同会議 ～青年関係報告～

## 青年委員会 司祭 小林 聡

11月29日韓国、カンジョンマウル 濟州島で日本側参加者は4・3平和公園と江汀村を訪れました。4・3事件と言われる住民の虐殺は1947年から約7年にわたって起こった出来事で、約3万人の人々が殺されました。権力によって押しつぶされた命、そしてそのことを心に刻み、命を選び取る生き方を問われた平和公園訪問でした。又江汀村は韓国海軍基地が建設され、反基地運動に触れる時間を頂きました。案内して下さったのは濟州教会信徒の青年。平和センターで活動するその青年は様々な人との出会いの中で、ここ江汀村で生活する選択をしてきたそうなのです。武器ではなく命を選び取る生き方、その覚悟や祈り、出会いの意味を教えられました。基地前での毎日のミサ、反基地の意思表示をする行進は、私の生活する福井でも響き合いたいと思いました。

30日濟州教会での会議では、日韓聖公会青年の活動、特に毎年行なわれている日韓聖公会青年セミナーを議題の一つとして協議しました。青年セミナーは隔年それぞれの国で行なわれ、昨年は日韓協働30周年を受けて、中国・延吉で行なわれました。それは歴史を学び、東アジアの平和の器になっていこうという願いからのプログラムでした。

今年は聖公会東アジア青年大会がマレーシアのクアラルンプールで行なわれたこともあり、日韓青年セミナーはありませんでした。来年は8月3日～7日、広島での開催を予定しています。それは8月6日の広島平和礼拝に日韓の青年が参加し、共に平和を祈り、反核に向けての学びを行なう為です。

これまで青年セミナーを日本側は青年委員会が担当してきましたが、韓国側には青年のための委員会がありませんでした。しかし、今年の東アジア青年大会に韓国からも参加し、他のアジアの青年達と出会い、大韓聖公会にも青年に

対応する部署が必要だという動きが起こり、大韓聖公会に青年学生宣教委員会が出来ました。委員長は大田教区のユ・ナクジュン主教、事務はソウル教区のチョン司祭が担当します。又東アジア青年大会、日本聖公会青年大会キムセン（北海道）にも参加した、大田教区の青年、金生さんが発起人となり、約18年ぶりに来年10月に韓国で大韓聖公会全国青年大会が開催される予定とのことでした。

今回日韓会議が濟州島で開かれたのも、私達が見過ごしがちな事柄に目と心を向けることが意図されていたと思います。その意味で日韓会議は日韓在日という意識を常に持ち、活動やプログラムを考えていく必要を感じました。来年の青年セミナーでは、特に在韓被爆者、在北朝鮮被爆者、又補償から漏れている人や、見えにくくされている人のことを取り上げたいと思います。そして朝鮮半島の平和統一、東アジアにおける平和を目指すTOPIKの活動やジェンダー、セクシャルマイノリティーの課題を青年活動の中でも意識したプログラム作りが出来るといいなと思いました。

最後に濟州教会を日韓の友情教会にという動きがあります。具体的には様々な議論が必要だと思いますが、個人レベルでも、そして青年レベルでも、各教会や伝道区レベルでも、今平和を願い、歴史から学び、自分の生活の場を掘り下げ、東アジアの平和ビジョンを構築する意味で、濟州教会を覚え、つながっていくことは大変意味のあることだと思いました。江汀基地前で毎日ミサをしている祈りの場に掲げてあった言葉を心に刻みたいと思います。「江汀は決して小さいものではない。ここから命や平和が生まれる」といった内容だったと思います。ベツレヘムから始まった主の平和がここにもあると感じました。ここで祈らせて頂いたことが、今も私の中で大きく鼓動しています。

## 日韓協働委員会報告 ～女性に関する課題を中心に

### 女性デスク 木川田道子

韓日聖公会宣教協働30周年記念大会(2014年)の決議に基づき、両聖公会の女性の交流を進めるために、委員会の正式メンバーではないが日本から正義と平和委員会ジェンダープロジェクトの篠田茜さんと共に今回の会議に参加させていただくことになった。大韓聖公会側の出席者は、両性平等局長のチェ・ルシアさん、女性団体連絡協議会代表のキム・アガタさん。お二人はちょうど「ジェンダー暴力に反対する16日間キャンペーン」期間中ということで、テーマカラーであるオレンジ色のものを身につけての参加だった。

協働委員会(11月30日 於・済州教会)では、女性の課題について、ルシアさんからこれまで日韓双方で確認してきた5点(①意思決定における女性の割合を増やしていく、②女性のエンパワメント、③性暴力の根絶、④グローバルなジェンダーの視点を特に教役者に持っていたきたいこと/東アジアの女性たちとの連携/毎年春の国連女性の地位委員会および聖公会代表団会合での協働、⑤日韓交流)を報告していただいた後、篠田さんから日本のジェンダープロジェクトの活動について報告していただいた。

韓国では今年初めて教役者大会で1時間のハラスメント防止研修を行なったとのことで、日本からの報告に対して「性暴力防止というのは教会内への発信なのか、それとも教会外に向けてなのか」という質問もあった。その他、私からは「202230」ポスターを紹介し、協働委員会委員長、金根祥主教にも1枚進呈させてもらった。

午後からは、たくさんのアジェンダを抱える協働委員会本体と私達は分かれて話し合うことになった。「女性の課題は女性だけで考えることでもないんだけど?」とぶつぶつ言いつつ、しかし実際に話し合うことが多すぎて個別に協議しないと時間が足りないのも現状である。情

報交換の中では、大韓聖公会管区総会代議員の割り当て制(選挙された代議員以外に女性団体の代表も投票権のある代議員として参加できる)についても伺い、日本聖公会も大いに参考にしてもらえたらと思った。今後の取り組みとしては、日韓双方の担当者連名で、ハラスメント防止や意思決定に女性の割合を増やすことについて、聖職養成を担う方々やリーダーたちに働きかけること、来年開催予定の日本聖公会女性団体連絡協議会に韓国から3名程度ゲストとして来ていただくこと等を決めた。詳細は今後詰めていくことになるが、関心を持っていただけるとありがたい。

なお、協働委員会の前日、研修として「四・三事件」の犠牲者を追悼する四・三平和公園、島南部の江汀(カンジョン)村に建設中の海軍基地周辺を訪れた。すでに多くの施設がほぼ完成しており、基地建設によって村が潤うとする賛成派、軍隊は人を守らないし環境も破壊する、とする反対派、それ以外の人、といったように地域にも分断が起きている状況も伺った。「四・三事件」という痛みを抱え、事実調査、国による謝罪を経て平和と和解の島を体現しつつあるはずの済州島に新たな状況が生まれていることに心が重くなる。案内をしてくださった青年が、あるエピソードを紹介してくださった。基地反対運動に関わっている仲間の女性が「同じクラスの中に親同士違う考えのお友達がいるけれど、私はどうつきあったらいいの?」と8歳の娘に聞かれ、女性は少し考えて「親同士の考えは違っても、お友達を人間として尊重してね」と答えられたとのこと。相手をこうだと決めつけず、尊重し、考えを出し合い、話し合う中で、人と人との関係を隔てているものの本当の正体、構造的な問題について気づいたり、考えたり、持続可能な共同体のあり方についてみんなで意見を出し合っている関係になるのではないかと思う。

## BSA 第99総会を開催

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)第99総会が、使徒聖アンデレ日の11月19日(土)に、牛込聖公会聖バルナバ教会を会場として開催されました。総会では、翌年度の事業活動計画(案)・会計収支計画(案)が審議されました。当日は、評議員会・理事会・記念聖餐式・入会式・再宣誓式・総会・懇談会、と盛り沢山のプログラムが用意されました。記念聖餐式では、東京教区主教大畑喜道師父に記念説教を賜り、感謝の祈りを捧げました。



2017年には、BSA日本支部結成90年、法人格取得70年、ポール・ラッシュ生誕120年の周年記念を迎えます。2017年度の事業活動計画には「希望のBSAを目指して」と題した文章を記してあります。その内容は次の通りです。

『BSAは2017年に創立90周年を迎えます。

BSAの活動、財政、会員数、女性正会員の是非、体制の若返り等、BSAを取り巻く状況を考える時、2017年度の活動は、BSAのこれまでの歩みを振り返り、ポール・ラッシュ博士をはじめ、BSAをここまで育ててくれた先達への思いを新たにすると同時に、この先の10年を視野に入れたものでありたいと思います。

2017年は、会員相互の交流を深め、本部、支部、会員と一緒にBSAの原点に戻り、BSAは何をすべきか、何

を目指すかを共に考えたいと思います。「祈祷」と「奉仕」により、「一人が一人を」を実践していくためには、BSAが大切にしてきたものは何か、それを見つめる「起点の年」と致します。

そのために 2017年度の事業計画を実施していく中で、教役者の方々、支部会員、一般会員、賛助会員の方々等意見交換を行ない、具体的な課題を整理し、創立100周年に向け実践を行なう信徒活動を目指していきます。』

・事業活動計画として継続

1. 機関紙「VISION」年4回発行
2. BSA 信徒叢書 18種販売と、新たな発刊を予定
3. 「青少年キャンプ」継続実施 3/27(月) - 29(水)  
2015年から 協賛：キープ協会 後援：日本聖公会
4. 「合同こどもキャンプ」継続協賛 主催：東京教区信仰と生活委員会・SS ネット
5. 研修ツアー 2泊3日・継続実施
6. 災害被災者への復興支援活動
7. 支部会員との関係強化による一体感の醸成

2017年度事業活動計画(案)・会計収支予算(案)が、審議の結果承認されました。

(記・足立征三郎)



# Merry Christmas and a Happy New Year

首座主事 ナアナル 植松 誠

管区事務所 総主事  
司琴 エッセイ 矢野 新一

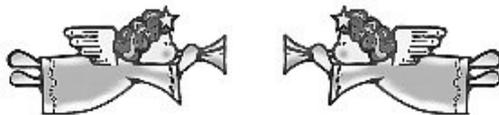
総務主事 金子 登美江

宣教主事 谷川 誠

広報主事 鈴木 一

財政主事 山中 一

Merry Christmas!!  
Paul  
Horn



鈴木さおり  
Ceilia S.S.

大山 美幸

大岡 基

藤林 圭子

及川 史子

## □日本聖公会『管区事務所だより』購読の御案内

日本聖公会の宣教理念と管区・各教区の実践活動、また世界各国の聖公会の動向を毎号の誌面での確にお伝えする広報誌『管区事務所だより』の定期購読についてのお問い合わせが増えておりますので、誌面を借りて御案内いたします。

本誌は原則として年に10回発行、1年分の購読料は1,000円です(特別増刊号なども含む)。複数年分まとめてお支払いいただく場合は¥1,000の倍数にてお振込み願います。

なお、教会によっては教会委員の人数分をまとめてお申し込みくださる向きもだんだんと増えております。複数の部数を一括して御注文いただく場合には、1人1年¥500×人数分にて計算し、お申し込みください。発行の都度まとめて教会宛にお届けします。

購読料の振込み等については、管区事務所宛に電話にてお問い合わせください。

電話：03-5228-3171

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。